

講義名	公務員特別演習			
担当教員	辻 美代			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	演習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

<b>主題と概要</b>				
<p>【主題】 公務員特別演習は、公務員を目指す経済学部生を対象とする、1年後期（演習 ）から4年前期（演習 ）まで一貫したプログラムである。「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。したがって、この演習のみで合格できるほど公務員試験は甘くない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められているのだ（まさに本学が掲げる「ネアカのびのび」へこたれず」の精神をもった人材）。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを積極的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。</p> <p>【概要】 3年生後期の公務員特別演習 は以下を実施する。  (1) 公務員（公安職）研究 公務員の講話を通じて希望職種について、その仕事内容や直面する課題等をより深く理解する。  (2) 試験対策演習  ・ 数の処理・文章理解の復習  ・ 一般知識科目（社会科学を中心に）を時事問題を通じて演習  * これら演習を通じて公務員に求められる社会問題等への理解を深める。</p>				

<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員（公安職）について更に理解を深め、公務員試験に向けてモチベーションを高めることができるようになる。</li> <li>演習を通じて地域社会の問題に関心を持つようになり、公務員試験や民間企業採用時に求められる「教養問題」の基礎を習得できるようになる。</li> </ul>				
<b>提出課題</b>				
(1) 公務員（公安職）研究 公務員の職務や課題について更に研究を進め、講演参加後にはレポート提出を課題とする。 (2) 試験対策演習 事前に与えられた課題問題に取り組み、解答並びに解説の作成を課題とする。				

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>				
(1) 公務員（公安職）研究 迅速授業で、提出レポートに担当教員からフィードバックを行う。 (2) 試験対策演習 迅速授業で、受講生は課題問題の解答および解説を発表し、担当教員はフィードバックを行う。また、更に理解を深めたい場合は、グループでディスカッションを行う。				

<b>評価の基準</b>				
以下の3点を加算して評価する。 (1) 公務員（公安職）研究のレポート（30%） (2) 試験対策演習での学習状況および発表（50%） (3) 受講態度その他（20%）				

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>				
・本クラスは、真剣に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。 ・少人数の演習形式を目指している。全員参加を基本とする（理由なく遅刻・欠席しないこと）。 ・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。 ・学内の公務員試験対策講座（3年生から始まる有料講座）等の受講、もしくは外部専門学校の受講（ダブルスクール）も強くお勧めする。 ・「基礎技能B」以外の関連する正課授業も、順次、履修することが望ましい。 (参考) 法曹入門、経済学入門、政治学、財政学、地域まちづくり概論、業務研究（官公庁） (行政職) 民法、憲法、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミカロ経済、マクロ経済				

<b>教科書</b>				

<b>プリント資料及び参考文献</b>				
・日本ニュース時事能力検定協会（監修）『2021年度ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編。毎日新聞出版				

<b>授業計画</b>				
1 授業の概要 2 公務員試験の動向 3 試験対策演習（数的処理・文章理解） 4 試験対策演習（数的処理・文章理解） 5 試験対策演習（数的処理・文章理解） 6 公務員による講話 7 公務員による講話 8 公務員による講話 9 公務員対策演習（社会科学） 10 公務員対策演習（社会科学） 11 公務員対策演習（社会科学） 12 公務員対策演習（社会科学） 13 公務員対策演習（社会科学） 14 応募書類の作成指導 15 まとめ  * スケジュールは変更の可能性あります。 * 公務員による講話は、兵庫県警、消防、自衛隊を予定しています。				

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
公務員特別演習 では2つの主要内容に対し、以下の予習復習が必要となる。 (1) 公務員（公安職）研究 公務員の職内容を詳しく調べ（1時間程度） 講演内容および授業内容をまとめる（1時間程度） (2) 試験対策演習 事前に与えられた課題に取り組み、解答並びに解説文を作成する（1時間程度） 演習での学修内容を新聞や雑誌記事を読むことで復習する（1時間程度）				

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>				
本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。 【法政科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】 「ネアカのびのび」への「たすけ」の精神をもった人材 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 創造力 新しい視点と豊かな発想を持った人材 自主・自取の精神を持った人材 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材 「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力				
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				
演習形式の授業である。受講生は課題について報告し、担当教員がそれについてコメントする。				

<b>実務経験の有無及び活用</b>				

<b>備考</b>				
* 新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバ修正があります。				